

地域安全学会・東日本大震災連続ワークショップ 2019 in 南相馬を共催し、発表等に 参加しました(2019/8/2-3)

テーマ：東日本大震災、災害科学

場所：南相馬市民情報交流センター（福島県南相馬市）

8月2日(金)～3日(土)に、南相馬市 市民情報交流センターにおいて、地域安全学会「東日本大震災連続ワークショップ 2019 in 南相馬」が開催され、当研究所は南相馬市とともに共催者となりました。同学会では、東日本大震災を契機とした今後の復興と防災について、被災地の現場で議論を深めていくことを目的として、通常の研究発表大会とは別に、同ワークショップを開催しています。これまで、2012年に福島県いわき市、2013年に岩手県大船渡市、2014年に岩手県宮古市、2015年に宮城県気仙沼市、2016年に宮城県石巻市、2017年に岩手県釜石市、2018年に宮城県南三陸町で開催してきており、今回の福島県南相馬市でのワークショップは第8回目で、34名が参加し、活発な意見交換が行われました。

また、今回のワークショップの企画・運営は、地域安全学会東日本大震災特別委員会委員長である当研究所の村尾修教授（地域・都市再生研究部門）、同委員の佐藤翔輔准教授（人間・社会対応研究部門）、杉安和也助教（国際共同大学院）が主に担いました。

2日には、まず、南相馬市による町の復興状況についての基調講演が行われ、その後、研究発表が行われました。当研究所教員が執筆者の研究発表は10件あり、このうち、丸谷浩明教授、佐藤翔輔准教授（以上、人間・社会対応研究部門）、杉安和也助教（国際共同大学院）、が登壇しました。各発表者の講演題目等は次の通りです。

丸谷 浩明ら：東日本大震災の被災企業調査も踏まえた熊本でのBCP 策定支援（2年目）

佐藤 翔輔・今村 文彦：学術論文にみる東日本大震災：関連学会論文を対象にした比較分析

杉安 和也・佐藤 翔輔・村尾 修ら：東日本大震災における南三陸町職員初動対応の検証研究

その4－災害初動対応拠点および避難施設の立地分析－

寅屋敷 哲也・杉安 和也・佐藤 翔輔・村尾 修ら：東日本大震災における南三陸町職員初動対応の検証研究 その5－自治体の災害対応業務に対する支援に関する考察－

柳谷 理紗・佐藤 翔輔ら：「Team Sendai（チームセンダイ）」による被災自治体職員の災害対応の継承に関する研究 ～その2

佐藤 悠司・杉安 和也ら：東日本大震災における在宅避難者への物資支援に関する調査と考察－福島県いわき市を対象として－

川見 文紀・佐藤 翔輔ら：世帯の脆弱性がすまい再建に与える影響： 仙台市仮設住宅に関するオープンデータの分析から

松川 杏寧・佐藤 翔輔ら：生活再建ケースマネジメント支援手法のキーワード分析－生活再建課題とその対応－

中川 政治・佐藤 翔輔ら：東日本大震災を伝承する官民連携体制のあり方検討

浅利 満理子・佐藤 翔輔ら：門脇小学校震災遺構の保存に関わる行政・住民の取り組み

※ 著者名は、筆頭者と研究所構成教員（下線）のみ記載

翌3日には、南相馬市内での現地見学会が行われました。南相馬市のご案内により、「福島ロボットテストフィールド」「南相馬市 消防・防災センター」他、23か所におよぶ同市の復興拠点を見学しました。

文責：杉安和也（国際共同大学院）
（次頁へつづく）



会場の様子



村尾教授（開会の挨拶）



南相馬市(復興企画課 門馬課長)による基調講演



丸谷教授の研究発表



佐藤翔輔准教授の研究発表



杉安助教の研究発表



福島ロボットテストフィールドの見学



南相馬市 消防・防災センターの見学



研究発表会 参加者



現地見学会 参加者